

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2016年第46週
(11月14日～11月20日)

- * 2016年11月24日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「平成28年・麻しんの国内流行」も掲載
しています。

平成28(2016)年11月25日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2016年46週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		43週	44週	45週	46週	年累計	46週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	77	89	61	51	3,251	348	21,282
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}							
三類	コレラ	1				2		9
	細菌性赤痢		1		1	36	2	112
	腸管出血性大腸菌感染症	10	5	6	5	432	44	3,450
	腸チフス					17		43
	パラチフス		1			8		19
四類	E型肝炎				2	34	1	324
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1	1		1	63	2	254
	エキノコックス症							18
	黄熱							
	オウム病			1		2		5
	オムスク出血熱							
	回帰熱							7
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					2		3
	サル痘							
	ジカウイルス感染症 ^{*4}					2		9
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*5}							57
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							1
	炭疽							
	チクングニア熱					4		13
つつが虫病		2		3	5	57	237	
デング熱	3	1	1		86	2	317	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4 2016年2月15日より新たに追加指定された。

*5 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		43週	44週	45週	46週	年累計	46週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						5	267
	日本脳炎							10
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症					1		2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症					1		5
	マラリア				1	18	2	48
	野兔病							
	ライム病							8
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
	レジオネラ症	6		3	5	130	31	1,441
レプトスピラ症					7	1	72	
ロッキー山紅斑熱								
2016/11/24集計								

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 51件 患者および死亡後診断 28件(肺結核 20件、その他の結核 7件、肺結核及びその他の結核 1件)、無症状病原体保有者 23件、年齢は10歳未満 2件(うち5歳未満 1件)、20代 10件、30代 6件、40代 4件、50代 6件、60代 9件、70代 8件、80代 6件、推定感染地は国内 50件、インドネシア 1件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 1件 患者、菌種はソンネ、年齢は30代、推定感染地はミャンマー、推定感染経路は経口感染であった。
腸管出血性大腸菌感染症 5件 患者 2件、無症状病原体保有者 3件、血清型・毒素型はO91 VT型不明 1件、O157 VT1・VT2 3件、O157 VT2 1件、年齢は20代 1件、30代 2件、70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は経口感染 2件、不明 3件であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 2件 患者 2件、年齢は50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は経口感染 1件、不明 1件であった。
A型肝炎 1件 患者、年齢は50代、推定感染地はパプアニューギニア、推定感染経路は経口感染であった。
つつが虫病 3件 患者 3件、年齢は60代 1件、70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 3件であった。
マラリア 1件 患者、病型は熱帯熱、年齢は20代、推定感染地はギニアであった。
レジオネラ症 5件 病型は肺炎型 5件、年齢は40代 1件、60代 3件、80代 1件、推定感染地は国内 4件、国内又は中国 1件、推定感染経路は水系感染 2件(温泉 1件、風呂 1件)、不明 3件であった。

※ 第44週該当分として〔四類〕A型肝炎 1件の追加報告があった。
 ※ 第45週該当分として〔三類〕腸管出血性大腸菌感染症 1件の追加報告があった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2016年46週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		43週	44週	45週	46週	年累計	46週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	5	1	3	2	198	10	998
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	2	1	1		64	2	251
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	5	3	5	174	23	1,365
	急性脳炎 *1				1	81	4	678
	クリプトスポリジウム症					1		13
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			15	2	156
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1		1	60	1	442
	後天性免疫不全症候群	8	9	5	5	421	17	1,269
	ジアルジア症					15		61
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1			42	3	266
	侵襲性髄膜炎菌感染症			1		5	1	40
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	6	12	6	299	28	2,261
	水痘(入院例に限る)	1	1	1	2	48	2	266
	先天性風しん症候群							
	梅毒	20	29	29	42	1,507	69	3,989
	播種性クリプトコックス症				2	17	5	116
	破傷風					4	2	116
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					2		48
	風しん	1		2	1	19	2	121
麻しん					22	1	153	
薬剤耐性アシネトバクター感染症					1		32	

2016/11/24集計

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 2件 病型は腸管 2件、年齢は20代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 1件、タイ 1件、推定感染経路は経口感染 1件、不明 1件であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 5件 患者 5件、病原菌はエンテロバクター・アエロゲネス 2件、エンテロバクター・クロアカ 1件、クレブシエラ・ニューモニエ 2件、年齢は50代 2件、60代 2件、70代 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は以前からの保菌 2件、医療器具関連感染(中心静脈カテーテル) 1件、不明 2件、90日以内の海外渡航歴は無し 5件であった。

急性脳炎 1件 病原体は単純ヘルペスウイルス疑い、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 血清群はA群、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染又は創傷感染であった。

後天性免疫不全症候群 5件 無症候キャリア 3件、その他 2件、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 1件、30代 3件、40代 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は同性間性的接触 5件であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 6件 血清型は検査未実施 6件、年齢は5歳未満 1件、40代 1件、60代 3件、80代 1件、推定感染地は国内 6件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、不明 5件、肺炎球菌ワクチン接種歴は価数不明4回接種済み 1件、無し 5件であった。

水痘(入院例) 2件 検査診断例 1件、臨床診断例 1件、年齢は40代 2件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、接触感染 1件、水痘ワクチン接種歴は無し 1件、不明 1件であった。

梅毒 42件 患者 30件(早期顕症梅毒Ⅰ期 16件、早期顕症梅毒Ⅱ期 13件、晩期顕症梅毒 1件)、無症候梅毒 12件、年齢は10代 1件、20代 13件、30代 6件、40代 16件、50代 4件、60代 2件、推定感染地は国内 41件、ラオス 1件、推定感染経路は性的接触 39件(同性間 9件、異性間 21件、性別不明 9件)、不明 3件であった。

播種性クリプトコックス症 2件 患者 2件、年齢は80代 2件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路・原因は免疫不全 1件、不明 1件であった。

風しん 1件 臨床診断例、年齢は5歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染、風しん含有ワクチン接種歴は無しであった。

※ 第45週該当分として〔五類〕梅毒 2件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2016年46週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2016年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		43週	44週	45週	46週		
小児科	RSウイルス感染症	311 1.20	155 0.59	142 0.54	134 0.51	263	264
	咽頭結膜熱	63 0.24	53 0.20	61 0.23	77 0.29		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	456 1.75	488 1.86	506 1.94	544 2.07		
	感染性胃腸炎	1,681 6.47	2,486 9.45	3,671 14.07	5,322 20.24		
	水痘	93 0.36	76 0.29	128 0.49	129 0.49		
	手足口病	339 1.30	265 1.01	176 0.67	197 0.75		
	伝染性紅斑	25 0.10	20 0.08	22 0.08	17 0.06		
	突発性発しん	144 0.55	123 0.47	116 0.44	142 0.54		
	百日咳	3 0.01	6 0.02	8 0.03	4 0.02		
	ヘルパンギーナ	90 0.35	57 0.22	44 0.17	50 0.19		
	流行性耳下腺炎	189 0.73	216 0.82	236 0.90	181 0.69		
	川崎病 *1	10 0.04	1 0.00	3 0.01	5 0.02		
	不明発しん症 *1	22 0.08	26 0.10	17 0.07	11 0.04		
	インフル エンザ	インフルエンザ *2	159 0.39	242 0.58	390 0.94		
眼科	急性出血性結膜炎					39	39
	流行性角結膜炎	27 0.69	22 0.56	20 0.51	13 0.33		
基幹	細菌性髄膜炎 *3		1 0.04			25	25
	無菌性髄膜炎	1 0.04	1 0.04	2 0.08	2 0.08		
	マイコプラズマ肺炎	46 1.84	33 1.32	48 1.92	32 1.28		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1 0.04		2 0.08	1 0.04		
	感染性胃腸炎(ロタウイルス) *4	4 0.16	2 0.08	1 0.04	2 0.08		
	インフルエンザ入院	4 0.16		1 0.04	5 0.20		

2016/11/24集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ 流行性耳下腺炎、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、過去5年平均と比較して高い値で推移している。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加し、流行警報基準の20.0を超えた。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は増加し、流行開始基準の1.0を超えた。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2016年46週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	15			16	1	1					
6～11か月	25	6	2	188	6	19		39	1	8	
1歳	53	20	15	598	10	78	2	85		14	5
2歳	29	8	26	510	8	31		14	1	6	6
3歳	6	11	43	568	9	19	2	3		4	19
4歳	3	8	60	601	10	18	2			6	14
5歳	1	6	74	558	21	13	2	1		4	20
6歳		5	58	502	20	4	1			2	20
7歳		5	56	332	12	3	2				23
8歳		1	68	296	10	2	1				21
9歳	1	1	47	196	5	1	1			2	16
10～14歳		1	69	405	15	4	4		1	3	30
15～19歳		1	3	56	1						3
20～29歳	1	4	23	496	1	4			1	1	4
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	134	77	544	5,322	129	197	17	142	4	50	181
先週比	-8	16	38	1,651	1	21	-5	26	-4	6	-55

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月							1				1
6～11か月	2		6								
1歳	2	7	11							1	
2歳	1	2	20								
3歳			27		2			2			
4歳			45					2			
5歳			43					3			
6歳			40					4			
7歳			57		1			2			
8歳			45								
9歳			29				1	2			
10～14歳			148					8		1	1
15～19歳		2	37								
20～29歳			37		3			3			
30～39歳			36		2			1			
40～49歳			39		3			2			
50～59歳			16					1	1		
60～69歳			12		2			2			
70～79歳			2								2
80歳以上			2								1
合計	5	11	652		13		2	32	1	2	5
先週比	2	-6	262		-7			-16	-1	1	4

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2016年46週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田		1.00	0.33	4.00		0.33					
中央区		1.67	0.33	43.00		0.67		1.00		0.67	
みなと	0.50	0.67	1.17	13.00	0.33	1.83		0.50			0.33
新宿区	1.13	0.50	2.25	12.63		0.25		0.38			
文京		1.00		14.00	0.25	1.50		0.50			1.25
台東		0.25		46.00	0.25			0.75		1.50	0.75
墨田区	0.40	0.20	1.80	13.40	0.20	0.20		1.00			0.40
江東区	0.22	0.33	2.44	38.22	1.22	0.78	0.11	0.44		0.11	0.11
品川区	0.63	0.13	0.63	23.38	0.38	0.25		0.38		0.50	1.38
目黒区	0.60		0.80	27.60		2.60	0.80	0.20		0.20	0.80
大田区	0.62	0.69	2.54	27.08	0.38	1.46		0.31	0.08	0.23	0.54
世田谷	0.38	0.50	1.25	17.13	0.19	0.94	0.19	0.13		0.25	0.31
渋谷区		0.25		18.50	0.75	0.25					
中野区	1.33		1.17	26.67	1.50	0.83		1.50		0.50	
杉並	0.82	0.09	0.55	12.82	0.36	0.45		0.27		0.27	0.09
池袋	0.25	0.25	0.75	6.75	0.25	0.75		0.25			
北区	0.29		0.86	19.86	0.29	1.00	0.14	1.00		0.29	0.14
荒川区	0.75		1.00	36.25	0.50	0.50	0.25	0.25		0.25	1.25
板橋区			0.90	15.70	0.70	0.30		0.30	0.20		0.30
練馬区	0.08	0.08	4.54	15.31	1.15	0.85		0.46		0.31	0.38
足立	0.46	0.23	1.38	31.23	0.54	0.46		0.62		0.08	0.62
葛飾区	0.13		3.00	33.13	0.13	0.25	0.13	0.88			0.75
江戸川	0.33	0.75	2.42	36.50	0.42	0.42	0.08	0.92		0.17	0.08
八王子市	1.09	0.09	2.64	22.64	0.64	2.09	0.09	0.64		0.27	1.55
町田市	0.13		2.63	19.13	1.00	0.50		0.50		0.13	2.88
西多摩	0.88		1.75	7.63	0.38	0.63		0.38		0.25	0.63
南多摩	2.11	0.44	1.67	14.11	0.44	0.56	0.11	0.33		0.22	0.56
多摩立川	0.29	0.14	2.29	7.71	0.64	0.43		0.50		0.07	1.14
多摩府中	0.38		2.00	17.48	0.29	1.05	0.10	0.86	0.05	0.10	1.57
多摩小平	0.67	0.67	6.87	12.27	0.60	0.20	0.07	0.73		0.13	0.80
島しょ		1.00	3.00								
東京都	0.51	0.29	2.07	20.24	0.49	0.75	0.06	0.54	0.02	0.19	0.69

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田			1.25					1.00			1.50
中央区	0.33	0.67	0.80								
みなと			0.67					1.00			
新宿区	0.25		0.42		1.00			1.50		0.50	
文京			1.43		1.00						
台東			1.83								
墨田区			1.13					3.00			
江東区			0.57								
品川区			1.33								
目黒区			0.88								
大田区			3.55								
世田谷		0.06	4.08				1.00				0.50
渋谷区			1.43					1.00			
中野区			3.00								
杉並	0.09		1.88		1.00			1.00			
池袋			0.71					2.00			
北区			0.27		1.00						
荒川区			1.29								
板橋区		0.10	1.19					2.00			
練馬区			2.29		1.00						
足立			1.50		1.50						
葛飾区		0.13	2.46					4.00			
江戸川			1.00		0.50						
八王子市		0.18	1.78		0.50			2.00		1.00	
町田市			1.00								
西多摩		0.13	0.57								
南多摩			1.50								
多摩立川	0.07		0.62					1.00			
多摩府中		0.10	1.53		0.33			2.67	0.33		0.33
多摩小平		0.07	1.04					0.50			
島しょ			0.50								
東京都	0.02	0.04	1.57		0.33		0.08	1.28	0.04	0.08	0.20

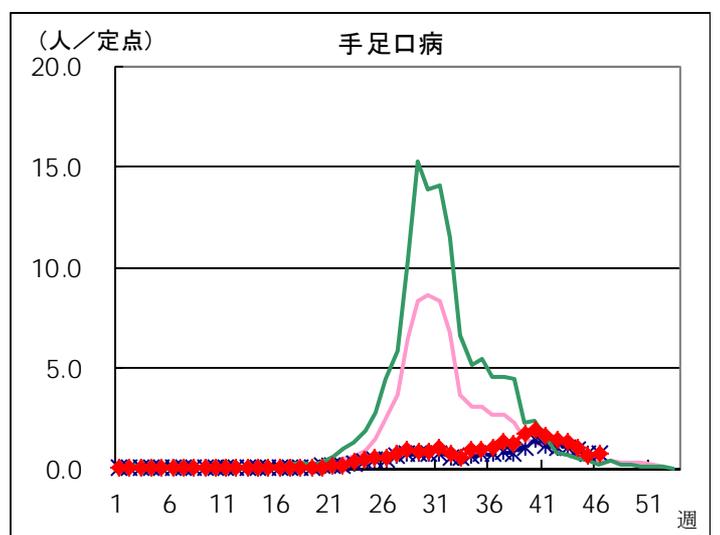
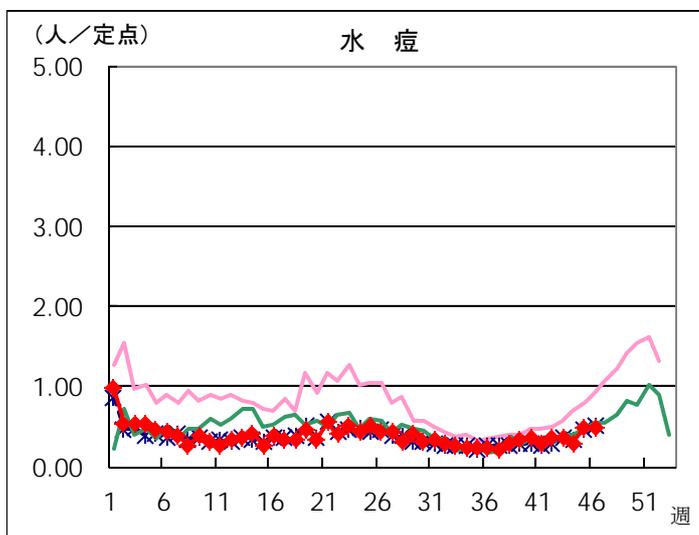
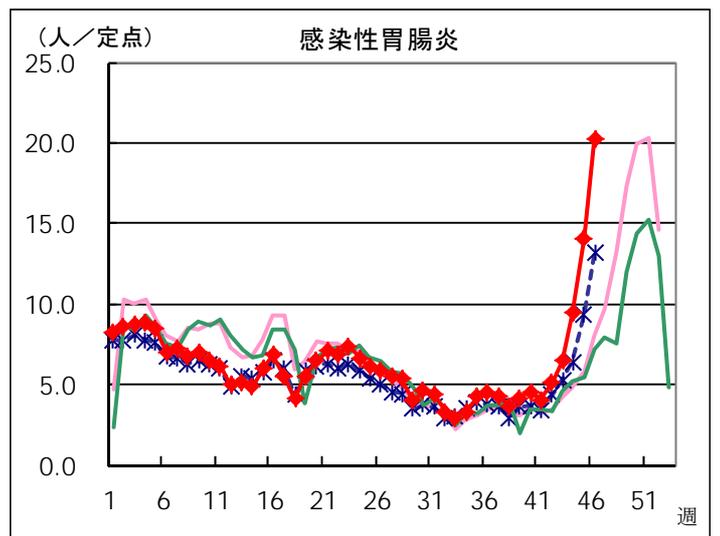
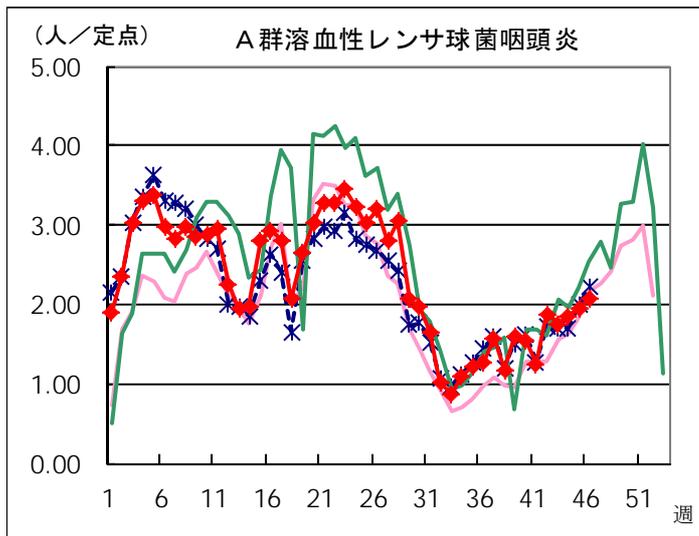
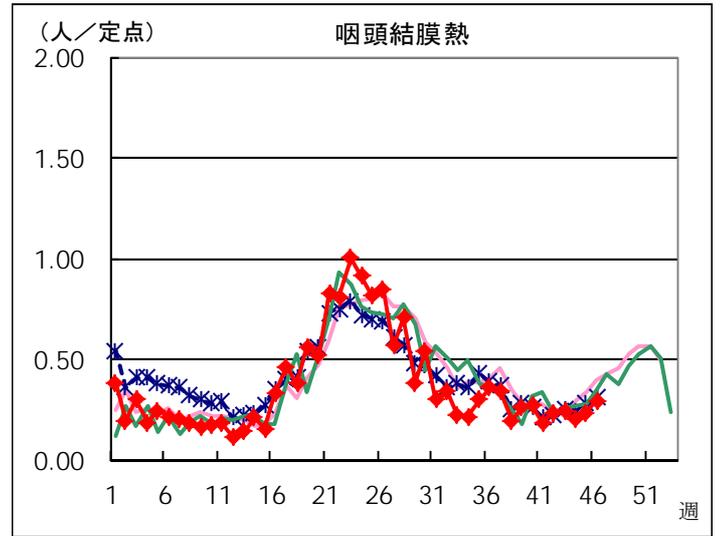
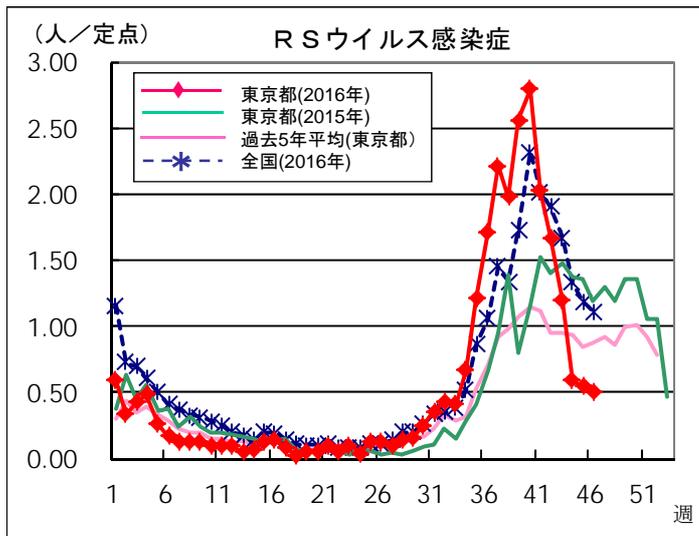
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2016年46週

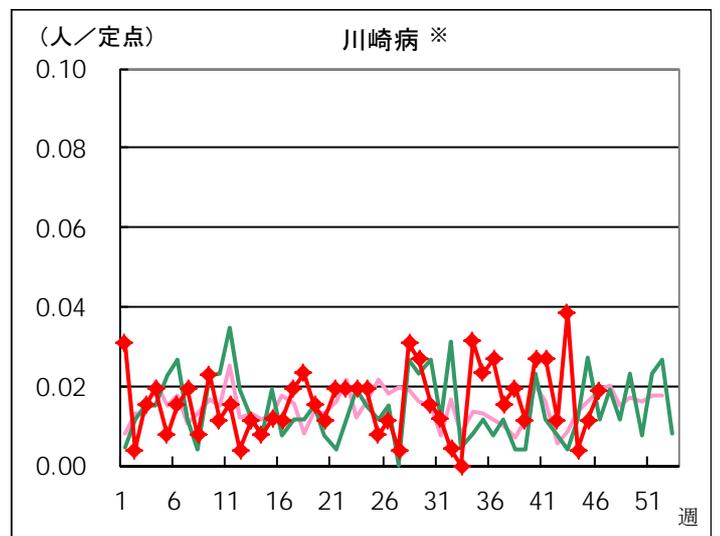
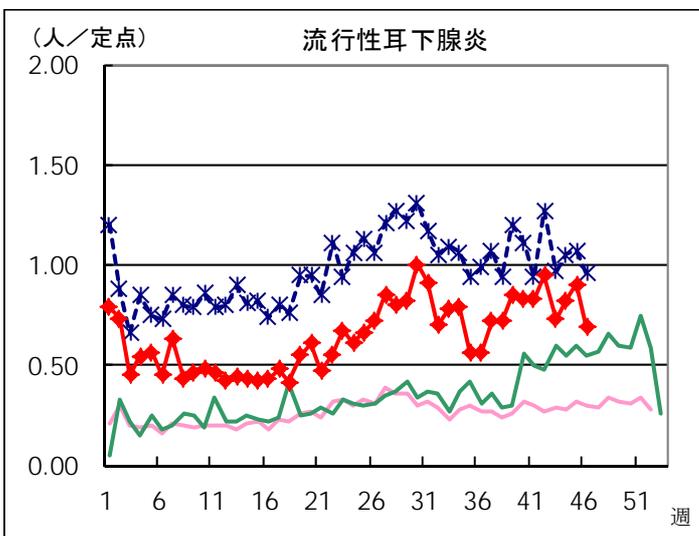
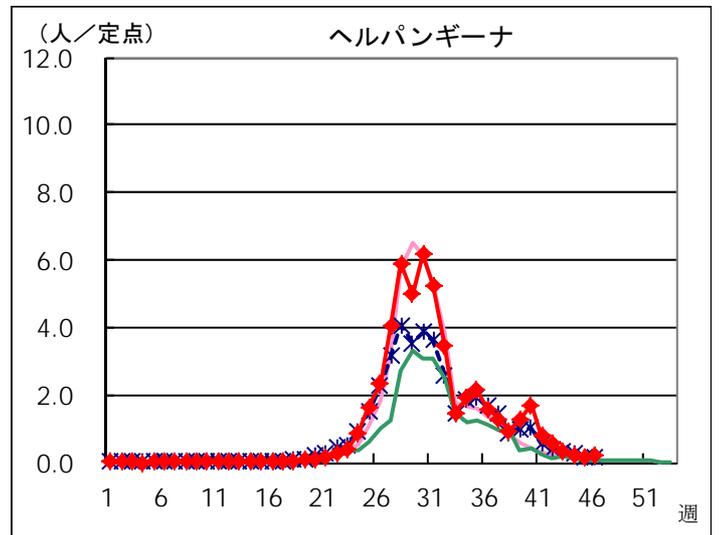
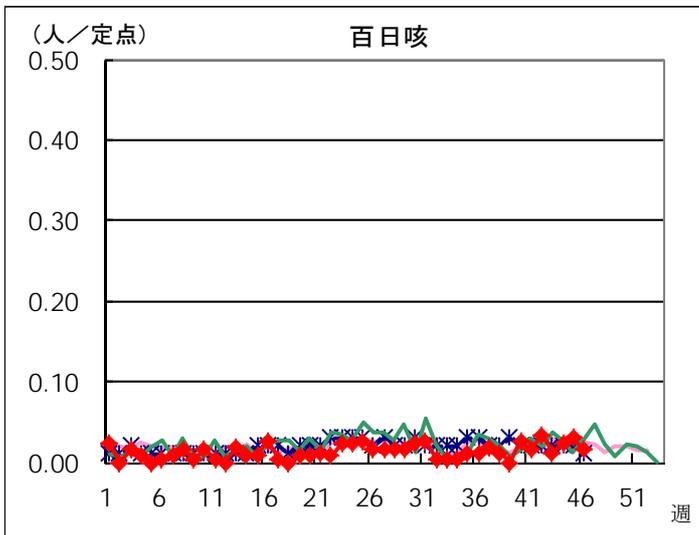
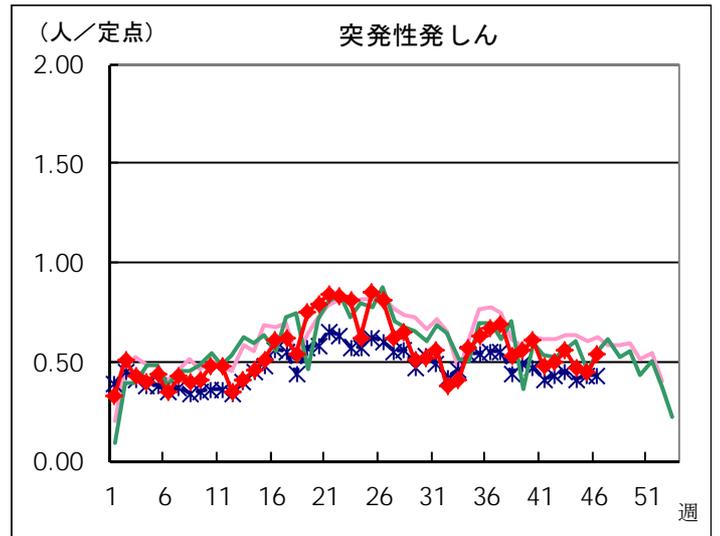
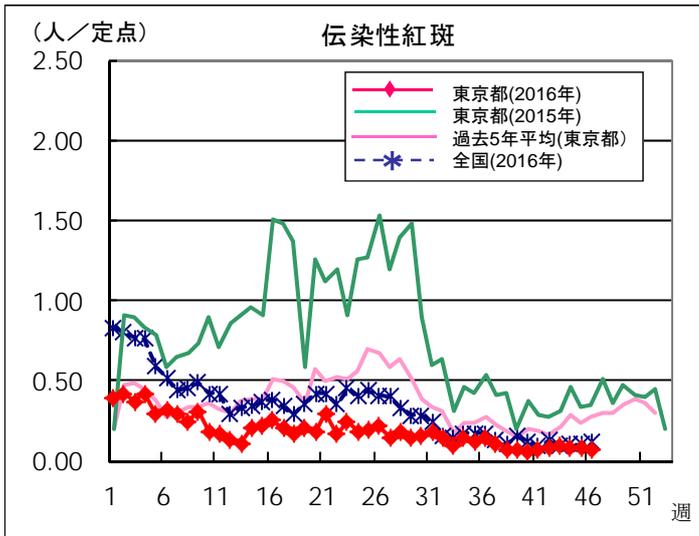
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田		3	1	12		1					
中央区		5	1	129		2		3		2	
みなと	3	4	7	78	2	11		3			2
新宿区	9	4	18	101		2		3			
文京		4		56	1	6		2			5
台東		1		184	1			3		6	3
墨田区	2	1	9	67	1	1		5			2
江東区	2	3	22	344	11	7	1	4		1	1
品川区	5	1	5	187	3	2		3		4	11
目黒区	3		4	138		13	4	1		1	4
大田区	8	9	33	352	5	19		4	1	3	7
世田谷	6	8	20	274	3	15	3	2		4	5
渋谷区		1		74	3	1					
中野区	8		7	160	9	5		9		3	
杉並	9	1	6	141	4	5		3		3	1
池袋	1	1	3	27	1	3		1			
北区	2		6	139	2	7	1	7		2	1
荒川区	3		4	145	2	2	1	1		1	5
板橋区			9	157	7	3		3	2		3
練馬区	1	1	59	199	15	11		6		4	5
足立	6	3	18	406	7	6		8		1	8
葛飾区	1		24	265	1	2	1	7			6
江戸川	4	9	29	438	5	5	1	11		2	1
八王子市	12	1	29	249	7	23	1	7		3	17
町田市	1		21	153	8	4		4		1	23
西多摩	7		14	61	3	5		3		2	5
南多摩	19	4	15	127	4	5	1	3		2	5
多摩立川	4	2	32	108	9	6		7		1	16
多摩府中	8		42	367	6	22	2	18	1	2	33
多摩小平	10	10	103	184	9	3	1	11		2	12
島しょ		1	3								
東京都合計	134	77	544	5,322	129	197	17	142	4	50	181

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			5					2			3
中央区	1	2	4								
みなと			6					1			
新宿区	2		5		2			3		1	
文京			10		1						
台東			11								
墨田区			9					3			
江東区			8								
品川区			16								
目黒区			7								
大田区			71								
世田谷		1	102				2				1
渋谷区			10					1			
中野区			30								
杉並	1		32		1			2			
池袋			5					2			
北区			3		1						
荒川区			9								
板橋区		1	19					2			
練馬区			48		2						
足立			30		3						
葛飾区		1	32					4			
江戸川			19		1						
八王子市		2	32		1			2		1	
町田市			13								
西多摩		1	8								
南多摩			21								
多摩立川	1		13					1			
多摩府中		2	49		1			8	1		1
多摩小平		1	24					1			
島しょ			1								
東京都合計	5	11	652		13		2	32	1	2	5

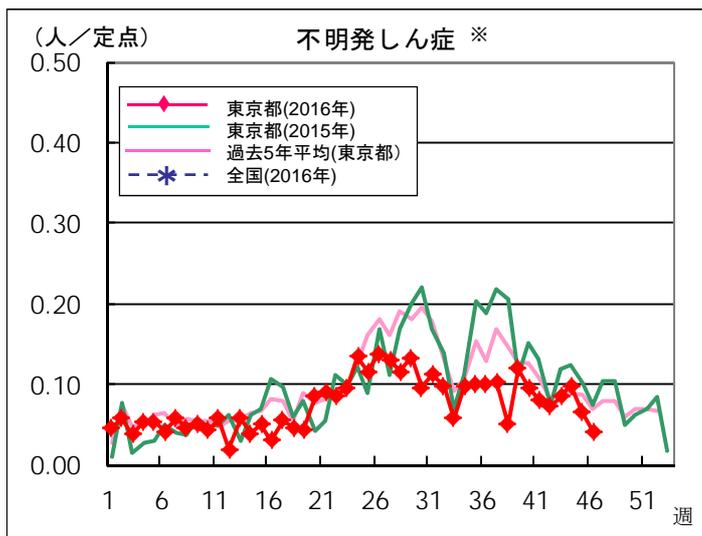
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2016年46週 現在)

◆ 小児科定点



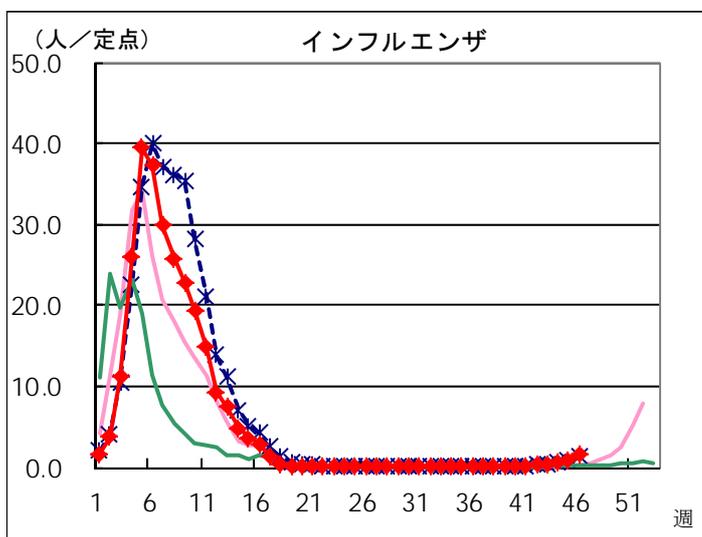


※ 東京都独自対象疾患

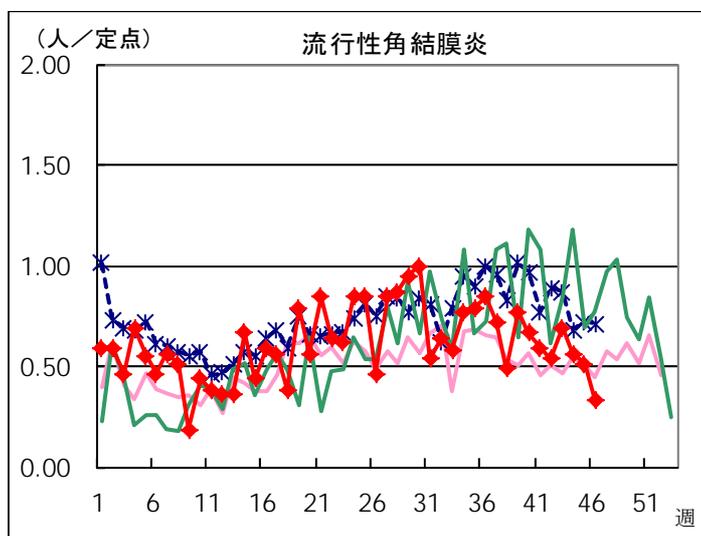
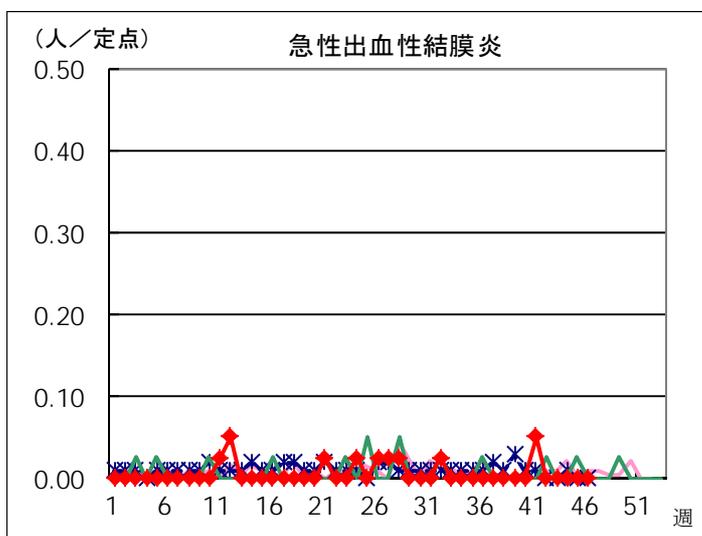


※ 東京都独自対象疾患

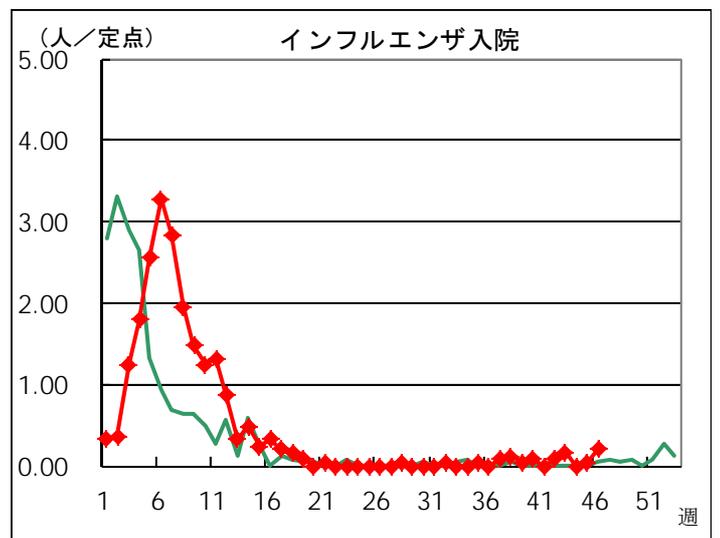
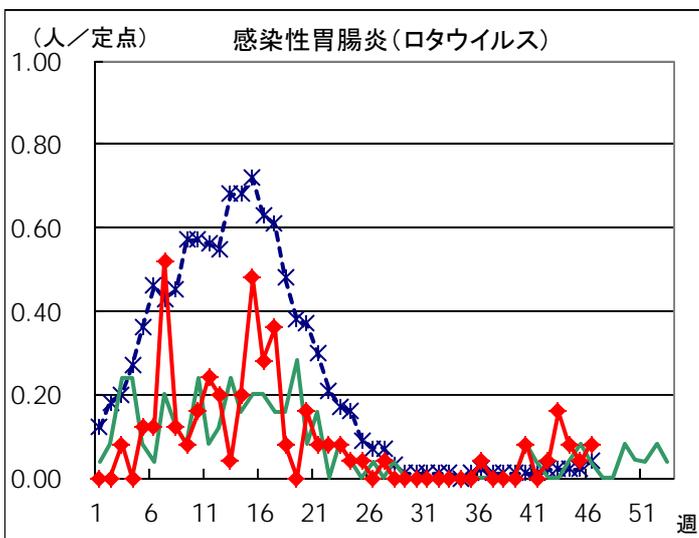
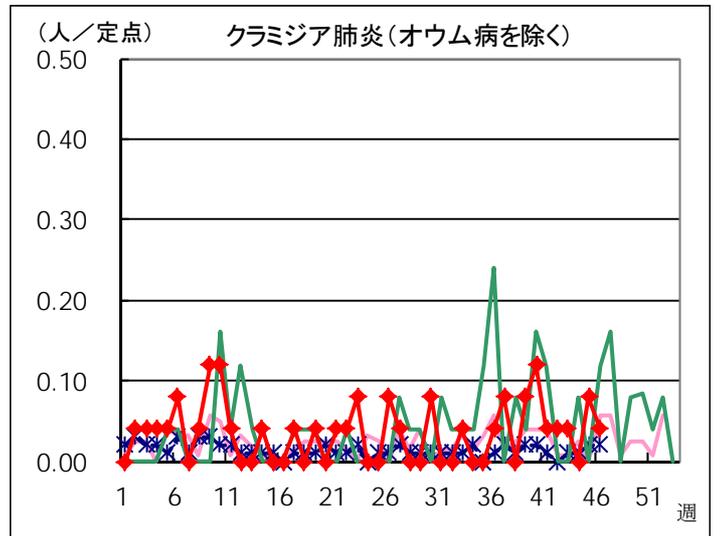
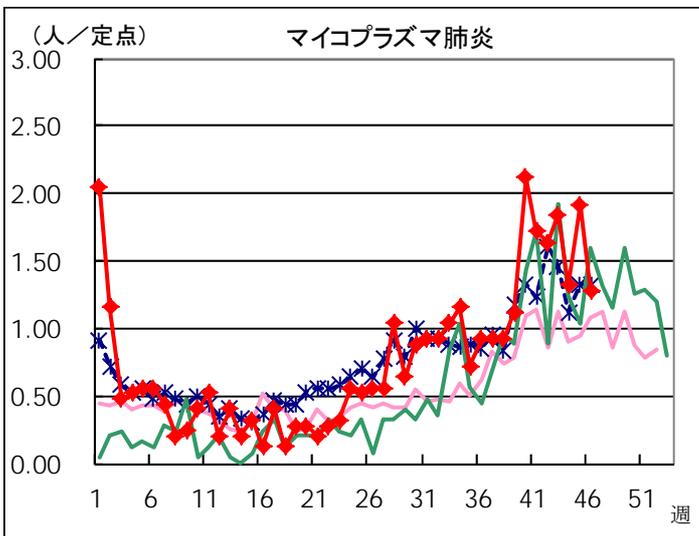
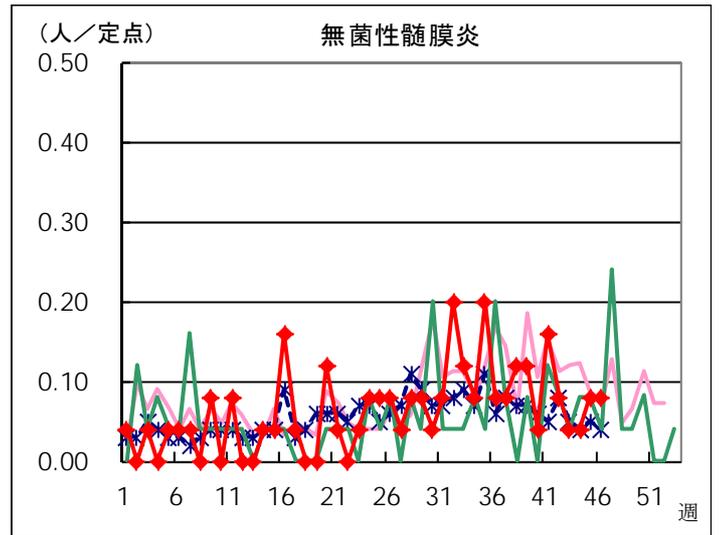
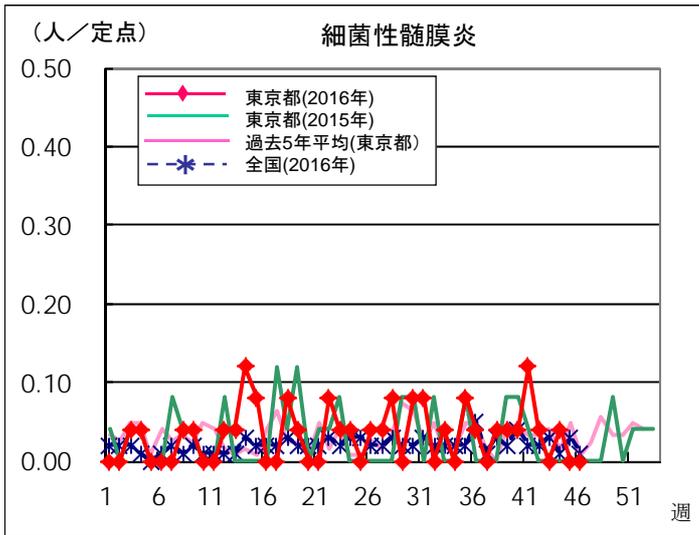
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
10/7	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-B3264型
10/7	マイコプラズマ肺炎	17	咽頭拭い液	肺炎マイコプラズマ(分離)
10/15	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌その他のT型
10/20	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-4型
10/27	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
10/28	手足口病	9M	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
10/31	感染性胃腸炎	3	直腸拭い液	ノロウイルスG II
10/31	感染性胃腸炎	5	直腸拭い液	ノロウイルスG II
11/1	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群16型

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2016年44週	1			
2016-2017年 シーズン累計*	1		7	

* 2016-2017年シーズンの開始は第36週(2016年9月5日～)

病原体検出情報【週別】

検出病原体	2016年							
	37週	38週	39週	40週	41週	42週	43週	44週
アデノウイルス	1		1	2		1		
コクサッキーウイルスA群	3	1	6	5	4	8	4	2
コクサッキーウイルスB群								
エコーウイルス					2	1		
エンテロウイルス71			1					
その他のエンテロウイルス						1		
ライノウイルス	1				1	1		
ヒトメタニューモウイルス								
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス	1							
ヒトヘルペスウイルス6型・7型		1	2	1		2		1
EBウイルス								
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス		2	2	1	3	1	1	
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)								
風疹ウイルス								
ヒトパルボウイルスB19								
RSウイルス	3		2	1	1	1	5	
ノロウイルス							1	2
ロタウイルス								
サボウイルス								
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型	1	1	1	2		1	1	
インフルエンザウイルスB型								
インフルエンザウイルスAH1pdm09								1
その他のウイルス								
A群溶血性レンサ球菌T-1型						1		
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型			1		1		1	
A群溶血性レンサ球菌T-12型			1					
A群溶血性レンサ球菌T-25型			1					
A群溶血性レンサ球菌T-28型								
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型		1			1		1	
A群溶血性レンサ球菌その他のT型							1	
A群溶血性レンサ球菌T型別不能								
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ			1		1			
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

病原体検出情報【臨床診断名別】

2016年37週～2016年44週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	14	1	11	10	1	32	2	7	3	10	14	1	10	8	6		3	7	11	4	
アデノウイルス		1													1		3				
コクサッキーウイルスA群						26				7											
コクサッキーウイルスB群																					
エコーウイルス																				3	
エンテロウイルス71						1															
その他のエンテロウイルス															1						
ライノウイルス						1				1										1	
ヒトメタニューモウイルス																					
単純ヘルペスウイルス																					
水痘・帯状疱疹ウイルス					1																
ヒトヘルペスウイルス6型・7型								2					5								
EBウイルス																					
サイトメガロウイルス																					
ムンプスウイルス											10										
麻疹ウイルス																					
麻疹A型(ワクチンタイプ)																					
風疹ウイルス																					
ヒトパルボウイルスB19																					
RSウイルス	13																				
ノロウイルス				3																	
ロタウイルス																					
サボウイルス																					
インフルエンザウイルスAH1亜型																					
インフルエンザウイルスAH3亜型															7						
インフルエンザウイルスB型																					
インフルエンザウイルスAH1pdm09															1						
その他のウイルス																					
A群溶血性レンサ球菌T-1型			1																		
A群溶血性レンサ球菌T-3型																					
A群溶血性レンサ球菌T-4型			3																		
A群溶血性レンサ球菌T-12型			1																		
A群溶血性レンサ球菌T-25型			1																		
A群溶血性レンサ球菌T-28型																					
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型			3																		
A群溶血性レンサ球菌その他のT型			1																		
A群溶血性レンサ球菌T型別不能																					
百日咳菌																					
肺炎マイコプラズマ																					2
肺炎クラミジア																					
髄膜炎菌																					
B群レンサ球菌																					
肺炎球菌																					
インフルエンザ菌																					
黄色ブドウ球菌																					
大腸菌																					
その他の細菌																					
その他の病原体																					

<感染症豆知識>

平成 28 年・麻しんの国内流行

平成 27 年 3 月、日本は WHO より麻しん排除国として認定を受けた。排除とは麻しん報告数がゼロではないが、土着株（その地域に特有とされる遺伝子型の麻しんウイルス:日本の場合は D5 型）による麻しんが 36 カ月以上なく、外部から侵入した麻しんウイルスが 12 カ月以上持続していないことであり、その裏付けとしてきちんとした患者報告システムと遺伝子型までのウイルス診断が求められる。そして麻しんワクチン 2 回の高い接種率である。わが国では all Japan で取り組んだ結果、これを達成したといえよう。平成 27 年は 35 例、平成 28 年も夏前までは一桁数の報告であった。

しかし 8 月に入ると、千葉県松戸市で渡航歴のない成人女性 A から家族・医療機関などを介した麻しんが発生。また千葉県幕張メッセでのコンサートに行った関西在住の若者 B が麻しん発症中であったことが判明、関西空港職員 C とその職場での麻しん発生などの情報が相次いだ。A はインドネシア由来を疑わせる D8 型、B はインドネシアから関空に戻り、帰宅後にコンサートに参加したことなどから A、B 両者には関連がありそうで、2.5 万人もの若者が集まったコンサート会場での感染拡大の可能性にヒヤッとした。一方 B と C は発症日が同日であり、潜伏期間から一致する時期に関空内におり、また麻しんウイルスは中国由来を疑わせる H1 型であったことから、B、C 両者は関空内で同じ H1 型ウイルスに感染したものと推測された。幸い松戸保健所、関空関連会社、大阪府その他多くの方々の取り組みで、前者は 13 名、後者は 33 名の発症、その他数名の余波はあったものの終息に至った。特筆すべきは、2.5 万人もの若者が密に集まるコンサート会場に麻しん患者 B がいたにもかかわらず、二次感染者は数名に過ぎなかったことである。かつては大学祭などで多数の患者を出したことがあったが、現在多くの若者はワクチン接種によって守られていたのであろう。昨年、数カ月で 1000 人の麻しんが発生したベルリン、同じころ米国ではデイズランドでの発生をきっかけに全米で 600 人の麻しんが発生したのに比較すれば、今回のわが国は小火の段階で終わることができたと言えよう。なんととっても日常からの定期接種が最重要であるが、国際空港など多くの人が入り出りするところは、感染症も入りやすいところとしての警戒と予防が今後必要であろう。

(文責 川崎市健康安全研究所長 岡部信彦)